

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	神学部
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1)研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 聖書学（旧約聖書学・新約聖書学）、歴史神学、組織神学（宗教哲学を含む）、実践神学の4構成（領域）において、研究演習担当教員への任用を促進し、学生が選択する研究テーマの広がりに対応できる研究教育組織を構築する。	→研究演習担当者の追加任用（2011年度までに1名）。	C
2. 担当の見直しを行い、上記4領域の教員が、「キリスト教神学・伝道者コース」ならびに「キリスト教思想・文化コース」の双方を担当することを分かりやすく明示する。	→担当者を含めた履修モデルの作成と公開（WEB等の広報媒体への掲載、履修指導への反映[心得に掲載]）（2012年度までに作成・公開）	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

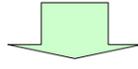
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目4.0.1	(現状説明) 神学部の教育研究組織については、専門領域の4構成（旧約聖書学・新約聖書学／歴史神学／組織神学・宗教哲学／実践神学）に適切な担当者を置いており、伝統的な神学の領域の教育・研究と、新たに展開したキリスト教思想・文化領域の教育・研究という、本学部の理念・目的に照らして適切なものであると言える。
☆ 小項目4.0.2	(現状説明) 教育研究組織の適切性について、2009年度は各領域の履修モデルを作成し、その過程において検証を行った。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目4.0.1	
★小項目4.0.2	2009年度において各領域の履修モデルを作成する課程で、教育課程との整合性について検証を行うことができています。今後、定期的な検証の仕組みについては検討の余地がある。
その他	



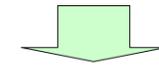
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目4.0.1	
★小項目4.0.2	履修モデルを履修要項（心得）などを通じて学生に周知するとともに、内容の詳細について、履修指導や履修相談の機会を通して随時、検証していく。
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目4.0.1	研究演習を担当する教員が、すべての領域において複数ある状態になっておらず、学生の選択する研究テーマに制限がある。
★小項目4.0.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目4.0.1	研究演習を担当する教員の任用を行う。また、研究演習の提示方法や選択の方法を、学生のニーズに照らして検討していく。
★小項目4.0.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○研究演習担当者の充実が期待されます。

【学内委員】

○小項目4.0.2の現状説明において、検証された評価はどうだったのでしょうか。

○理念・目的の検証と絡んで、組織の適切性については絶えず検証が必要です。記述にあるあるように、定期的な検証のしくみが課題でしょう。

○小項目4.0.2について、「定期的に」検証できる仕組みの具体化が望まれます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★	小項目4.0.2の現状説明について、履修モデル作成にあたっては、授業科目の順次性など4年次の研究演習に至る過程の整理を行った。同時にその作業は、どの時点のどの授業をどの教員が担当するのか、また、それは専任教員が担うのか非常勤講師が担うのかなど、教育研究組織における適切性の確認にもつながった。結果、概ね問題ないとの認識を得た一方で、研究演習担当者の充実など課題も浮き彫りになった。これらについては、今後策定されるカリキュラム・ポリシーにも照らし、定期的に検証していくことが必要である。
---	--

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

--	--

<個別的な指標>

--	--